

12時間制と24時間制

放送の時間表示について考えてみた。時間表示には、1日を午前と午後に分ける「12時間制」と午前、午後をわけない「24時間制」とがある。わかりやすさのため「午前0時」を「夜中（深夜）12時」などとすることはあるが、放送では主に「12時間制」を使う。一般的にも「12時間制」を使っている場合が多いが鉄道や船舶などのように「24時間制」を主に使っている業種もある。時間の見間違い、聞き違いを防ぐためだ。

さて、放送で最近「夜中の12時」（午前0時）を指して「24時」とする表示が出てきた。特に民放の番組で「今夜24時から放送」などと紹介しているのを目にする。本来は、「23時59分」の次は「24時」ではなく「0時」である。「24時」は24時間制をこえた表示だ。民放では「24時」にとどまらず「30時」までの表示を目にする可能性がある。前日の夜から翌日の朝まで続いている番組の場合、24時をこえた表示にすることがあるようだ。番組編成上の1日は各局ともに午前4時から翌日の午前4時までとする場合が多い。時計表示の1日とは別に放送では番組編成上の1日で考えるため、「0時」をこえて「翌日」になっても、「その日」（前日）

の延長という感覚なのだろうか。また、われわれの1日は起きてから寝て意識がなくなるまでという感覚がある。人々の寝る時間が遅い時間にずれ込み、われわれの1日も「午前0時」をこえる遅い時間までのびており、24時間制をこえた表示に抵抗がなくなっているのだろう。

では、実際にはどう考えられているのか？平成15（2003）年にNHKで調査を行った。「午前1時」を指している時計の図を見て「25時」と言う方がわかりやすいと答えたのは1%。「午後11時～午前1時」を言うのに「23時～25時」がわかりやすいと答えたのも2%で、いずれも午前と午後を明記する「12時間制」で答える人が圧倒的に多かった。

NHKでは時間表示に「深夜」「夜中」などことばを補う工夫もしている。私の感覚では26時以降は計算が必要でかえってわかりにくい。また、調査の結果でも日にちを間違えて回答する人が少なからずいた（23%）。終日放送が多くなりこれまでの時間表示ではわかりにくくなっているのは確かだ。放送としてよりわかりやすい時間表示を考えることも必要になっているのだろう。

山下 洋子（やました ようこ）